

フィリピン

トウノバタハ リーフ

Photo&txt Kyu Furumi
Design tomato
Special Tanks World Tour Planners

フィリピンのパラワン島の沖合い約150kmに浮かぶトウバタハリーフ。

世界自然遺産にも登録されるこの巨大なサンゴ礁は

4月～6月の3ヶ月間の期間限定で潜ることが許される。

多種多様のサンゴが多くの命を育む。

ダイバーであるからこそ出会うことが出来る世界遺産。必見です。



Tubbataha Reef

昨年引き続き2度目の取材となるトゥバタハクルーズ。去年はメチャメチャ透明度も良かったし、マンタも出たし、言うまでもなくサンゴはもの凄かったなあ……。トゥバタハクルーズの拠点となるパラワン島に向かう機内の中一人でアレコレ思い出しながらニヤニヤする。周りの人にはちょっと危ない人と思われてしまうかもしれないが、再び極上の海に出会えるので、そんなことはお構いなし。

妄想にふける空の旅は時間が過ぎるのが早い。パラワン島の都市プエルトプリンセサに到着し、現地スタッフの出迎えを待ちクルーズ船に向かった。

トゥバタハに出かける ちょっとその前に……。

今回僕が乗船したのはボルネオエクスプローラー号。一目見ただけで陽気だとわかるガイドのボールから船内生活の説明を受け、港からポートで数分のポイントへ早速チェックダイブへと向かった。このポイントは実は観光地としても有名なホンダ湾。透明度が良い訳ではないが、水深も浅くいわゆる内湾性の生き物が数多いので、じっくりとフィッシュウォッチングを楽しむことが出来る。これでもかと鮮やかな体色で自己主張するカムリニセスズメ、延々とももの凄いやスピードで身体をシェイクするチョウチョウコショウダイの幼魚。ああなんて楽しいチェックダイブ。「チェックダイブもう一本行っていい?」夕食後にはトゥバタハリーフに向け出航するので、そんな願いは受け入れられる訳もなく日は暮れていく。その時のキレイな夕陽だけが僕を慰めてくれた。明日の朝、目覚めた時、そこは世界遺産の海だ。



フィリピン
トゥバタハ
リーフ
世界遺産クルーズ

こんなにも幻想的な夕焼けはなかなか出会ったことがない



- 01/ ハデハデ体色のカムリニセスズメ。見つけると嬉しくなります
- 02/ オイランヨウジがクネクネしながらこちを見つめていました
- 03/ ずっと体をシェイクさせるチョウチョウコショウダイ。凄い体力
- 04/ 可愛いバンダコムトゥースプレニー
- 05/ 鮮やかなウミウシの仲間も数多く目にした



Tubbataha Reef, PHILIPPINES
Web-lue 2008. Autumn

巨大なシーファンも所狭しと生えています



いざ世界遺産のサンゴに出会う

朝、 緩やかに揺れる波で目が覚めた。天気よし、気分よし。デッキに出てみればそこはあらゆる青で出来たグラデーション。ここが世界有数のサンゴの海だ。実はこのトゥバタハリーフは南北2つのリーフに分かれている。その時々天候や風などの条件を考慮し、南エリアから回るか北エリアから回るか決定される。今回ボルネオエクスプローラー号は南エリアから攻めることになった。

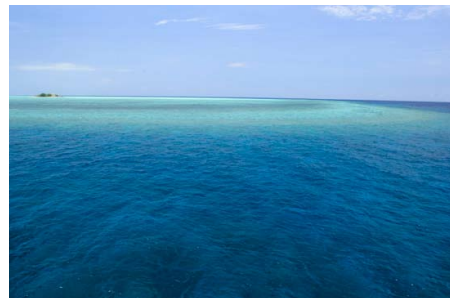
トゥバタハリーフでのダイビングはリーフエッジをドリフトで流すスタイルになる。潮の干満などでカレントの入る方向が変わるのだが、ドロップオフを右側に見ながら泳ぐか左側泳ぐのかという違いで、複雑なコース取りが無いぶんビギナーから安心して潜ることが出来るだろう。そして見所はなんとと言っても美しいサ

ンゴ達。1993年に世界自然遺産に登録されて以来、手厚く保護されるサンゴ礁は現在確認されているだけで約400種。様々な色や形のサンゴが超高密度に群生する。トゥバタハリーフとは太古の昔からサンゴが重なり寄り合い勢力を拡大し創りあげられた姿。それはまるで一つの巨大な生き物のようで、静かでありながら何か強烈なメッセージを我々に投げかける自然の意思。この光景に出会える喜び、興奮はダイバーだけに許された特権なのではないだろうか。

- 01/メラネシアンアンティスなどハナダイの仲間がサンゴを彩る
- 02/潮通しの良いドロップオフは大物の通り道
- 03/願わくばこの美しいサンゴをいつまでも見ていたい
- 04/位長く伸び上がるムチカラマツもフォトジェニックに見えてしまう



ピッシリと海底を埋め尽くすサンゴ群生。リーフの浅瀬は特に見事



青い海と一口に言ってもいろんな青がトゥバタハには存在する



心地の良い流れの中を漂う

フィリピン
トゥバタハリーフ
世界遺産クルーズ

Tubbataha Reef, PHILIPPINES
Web-lue 2008. Autumn



真っ赤なイソバナに抱きつくように寄り添うタイマイ



群れ時々大物

ギンガメアジの大群には突然目の前に現れる

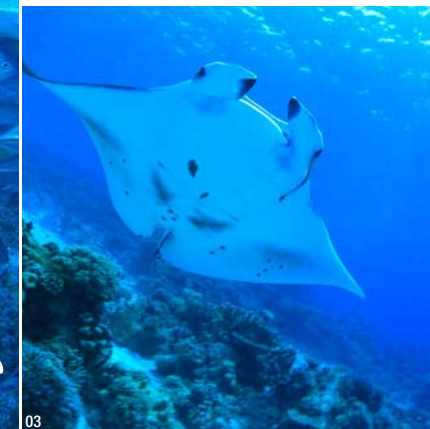


01



02

01/ 青い海に映えるアヤコショウダイの群れ
02/ ぼーっと寝ていたナースシャーク。まだ昼間ですが
03/ トゥバタハにはマンタが高確率で現れるポイントも存在する



03

フィリピン
トゥバタハ
リーフ

世界遺産クルーズ

トゥバタハリーフでは強弱はあるものの、基本的にどこのポイントでも流れがあると考えた方がよい。時に緩やかに時に強烈にカレントが走る。その流れの緩急こそが魚の群れや、いわゆる大物生物との出会いを演出してくれるのである。まず印象的なほど多い生物といったら海亀の仲間だろう。タイマイとア

オウミガメが殆どなのだが、ゆっくりドロップオフを泳いでいるもの、ほんやり岩の窪みで寝ているもの、藻やサンゴをガリガリかじっているものなど千差万別。まあどれにしても「私焦っています」と言うカメに出会うことはまず無いだろう。彼らの穏やかな振る舞いがトゥバタハリーフの平和の証拠なのである。

イソマグロやギンガメアジも大きな群れを作りブンブン泳ぎ回り、ホワイチップやグレイリーフなどのサメもすいーっと近づいてくる。ナースシャークが穴に頭を突っ込んで寝ていたりと実に大物や群れが目まぐるしく入れ替わる海なのである。そして忘れてはならないのがマンタ。自然の中でのことなので確実に出会

えるとは言い切れないが、マンタのクリーニングステーションとなるポイントもあるので、遭遇率は高い。更に僕はまだ出会っていないのだが、毎年ジンベエザメと遭遇したという話も聞こえてくる。彼らは確実にこの海のどこかに存在している。

Tubbataha Reef, PHILIPPINES
Web-lue 2008. Autumn

世界遺産を彩る生き物達

01

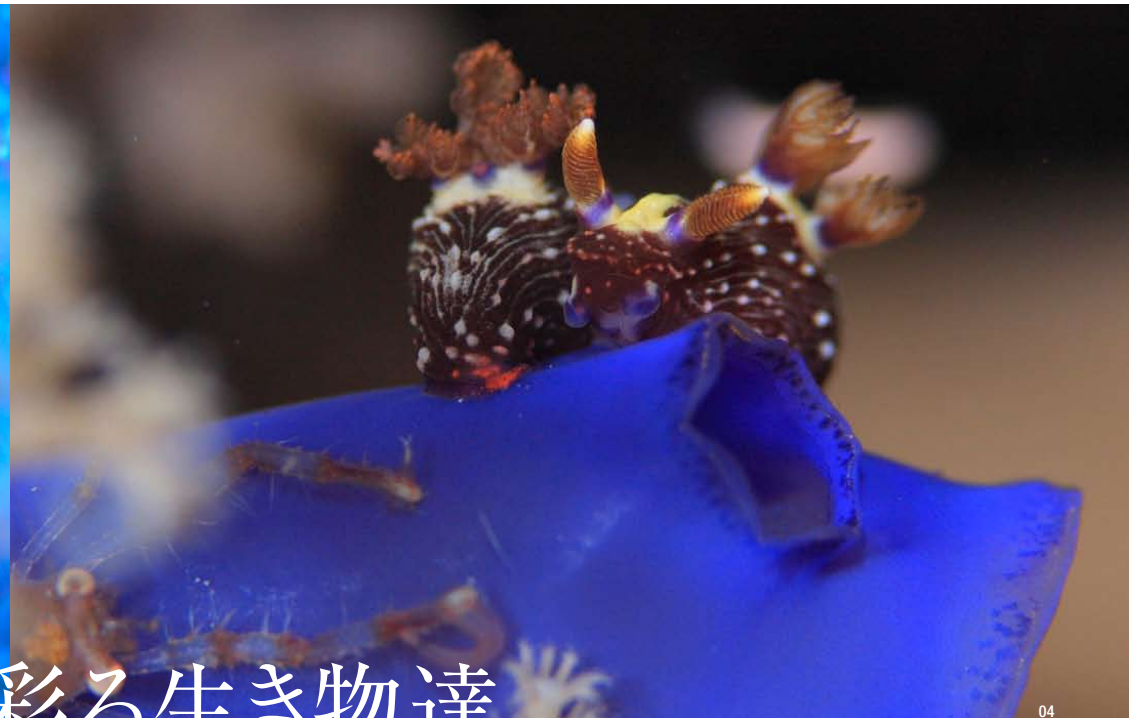
01/ 鮮やかなソフトコーラルの間で踊るスマレナガハナダイ
02/ 「今日はどのホヤを食べようかなあ」
03/ 凄じい角度ですが踏ん張っています
01/ ナイトダイブで出会ったホヤの上で行われるウミウシの交尾



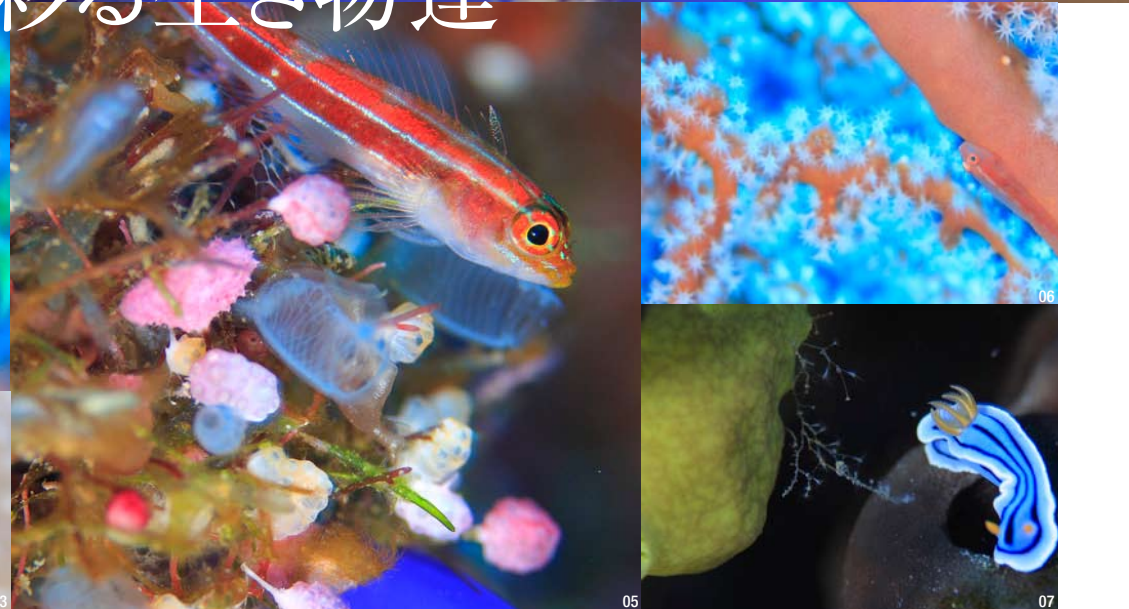
02



03



04



06

07

小さなサンゴや小さなホヤ。ここは世界遺産のアトリエです。

Tubbataha Reef, PHILIPPINES
Web-lue 2008. Autumn

そして怪人が現れた。

丸々と太った極太ハンマーヘッドが颯爽と現れた (Photo by Marc Mason)

フィリピン
トゥバタハ
リーフ
世界遺産クルーズ

Tubbataha Reef, PHILIPPINES
Web-lue 2008. Autumn

フィリピン
トウバタハ
リーフ
世界遺産クルーズ



ユラユラと我々の周囲を泳ぐ姿は実に優雅であった (Photo by Marc Mason)

トウバタハリーフを巡る旅も終盤戦。北エリアの人気ポイント「マラヤンレック」に朝一番潜ることになった。このポイントはその名の通り大きな沈船が浅瀬に沈んでいて、そこにアヤコシウダイやギンガメアジが住み着いている。個人的には昨年潜り印象に残ったポイントで、他のポイントには無いような光景が撮れたので、今年もバシバシと写真を撮っていく。人を絡め

旅のラストを飾った出会い。

- 01/ 沈船は魚達にとって絶好の住処となっている
- 02/ 一部海面上にも飛び出る大型の沈船
- 03/ 静かに現れた怪人ハンマーヘッド



(Photo by Marc Mason)

たり絡めなかったり。そんなこんなでチームは移動し、ドロップオフを沖合いに進んでいく。まだ薄暗い早朝の海。何かが出そうな雰囲気はブンブンである。何も無い中層を漂うこと数分後「カンカンカンカン」けたたましいほどのタンクを叩く音が響き渡る。そこにはユラユラと深海から湧き上がって来たトンカチが5本。いやハンマーヘッドが5匹。旅の最後の最後にやって来た興奮。探し当てたガイドも興奮。眠たい目を擦りながら潜っていた我々も大興奮。世界遺産の海の粋な演出にしばらくの間皆で酔いしれた。そして様々な出会いを写真やログブックに書き写しトウバタハでのダイビングを終えた。



フィリピン
トゥバタハリーフ

世界遺産クルーズ

広い海原にボツリと浮かぶレンジャーステーション



- 01/当然ですが辺り一面海しか見えません
- 02/ディナーの前に全員参加のゲームを楽しむ
- 03/干潮時にはカニがたくさん出てくる
- 04/笑っている顔のように見えませんか?
- 05/ダイビング以外のイベントの一つがレンジャーステーション訪問



レンジャーステーションへお邪魔します。



美し夕焼けの中皆で最後の夜のビーチディナーを楽しむ

先にも述べたがトゥバタハリーフは世界自然遺産として手厚く保護されている。この海はここに駐在するレンジャー達によって監視され、密漁者などから護られる。そのレンジャー達が生活するレンジャーステーションは上陸することが可能で、彼らと会話もでき、Tシャツなどお土産も購入出来るので旅の記念に立ち寄ってみたいところだ。そして旅の最終日、ボルネオエクスプローラー号のクルーの計らいでビーチディナーがレンジャーステーションの砂洲で行われた。干潮時には美しい砂浜が現れるレンジャーステーション。黄金色に焼けたビーチで今回乗り合わせた皆でゲームを楽しみ、美味しい料理に舌鼓を打ち、ビールを飲み楽しむ。初めて出会った者同士が船内での生活を共にするなかで、友情を深めていく。ダイブク

ルーズという共通の目的を持っていれば尚更のことだろう。宴は船に戻っても続きトゥバタハリーフでの最後の夜は笑いに包まれていた。



レンジャーステーションで飼われていた愛嬌抜群の子犬

Tubbataha Reef, PHILIPPINES
Web-lue 2008. Autumn

Information Link
<http://www.wtp.co.jp/> 関連情報HPへ



01/窓が大きく太陽の光が入り込み船内も明るいボルネオエクスプローラー



02



04



03



ダイビングスタイル

ダイビングは基本的に1日4ダイブ。5ダイブ目のナイトダイブはオプションとなる。ダイビングをしている以外の時間は主に食事となり、食べては潜り食べては潜るの繰り返しとなる。本船でブリーフィングやセッティングを行い、テンドーボートに乗り換えてポイントまで向かう。トゥバタハリーフのポイントはドロップオフの壁沿いを泳ぐことが多い。足元は世界遺産に登録されているサンゴなので着底するときなどは細心の注意が必要だ。泳ぐ際もオクトパスやゲージ類でサンゴを壊さぬようホルダーなどでBCに固定できるようにしよう。基本的に1グループは少人数となるが水深の管理などは自身のコンピューターでこまめにチェックしておきたい。



05

トゥバタハリーフはパラワン島から片道で6～10時間（海況による）ほどかかる為、もし万が一何かが起こった場合、緊急輸送にもかなりの時間が必要となる。シグナルフロートなども用意し常に無理をせずセーフティダイビングを心がけて欲しい。

ボルネオエクスプローラー

船体27.55m、客室10部屋、全室エアコン、バス、トイレ付き。大きな船体ながらも定員が少なめの設定のため非常にゆったりと生活が出来る。食事は3食ビュッフェとなりフィリピン料理を中心に中華や日本食が用意されることもある。どれも美味しいので毎度楽しい時間だ。ダイビングガイドも経験を積んだスタッフがスタンバイし、安全かつ細やかにトゥバタハの海を紹介してくれるだろう。それぞれの客室の電圧は220Vになるため変圧器は必要だが、リビングスペースには110Vの電源も用意されている。

アクセス

各地からマニラ空港を経由しパラワン島のプエルトプリンセサを目指す。プエルトプリンセサからクルーズ船が出港するホンダ湾まで車でおよそ20分。日本からの出発ではプエルトプリンセサへのフライトが翌朝になるためマニラでの一泊が必要となる。各クルーズ船とも出航スケジュールが決まっているため、自身の希望にあわせてプエルトプリンセサへ入る日程を決めることになる。プエルトプリンセサからトゥバタハリーフまで片道の距離がおおよそ150km。

Information

※2009年GWのトゥバタクルーズ予約受付開始!
大人気の世界遺産ダイブクルーズ。予約はお急ぎ下さい!
予約・問い合わせ ワールドツアープランナーズ <http://www.wtp.co.jp/>



06



07



08

05/ 明るいリビングダイニングも窮屈間は全く感じられない
06/ スタッフは皆明るくナイスガイが揃っています
07/ 旅の終わりには集合写真を撮ったり連絡先を交換したり、輪が広がります
08/ マップを見ながら次に潜るポイントを確認しよう

Tubbataha Reef, PHILIPPINES
Web-lue 2008. Autumn

Information Link
<http://www.wtp.co.jp/>

関連情報HPへ